



エネルギー



火力・地熱発電を中心として、富士電機の「創エネルギー」を担うプラント事業の強化を図ります。発電分野では、アジア・中近東市場を中心とした火力・地熱発電プラントの受注拡大、および燃料電池の拡販に取り組みます。

原子力・放射線分野では、放射線測定機器および放射線管理システムにおいて、品質精度の高い製品供給により安心・安全を提供するとともに、復興支援を推進していきます。

(単位: 億円)

| | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度(予想) |
|------|--------|--------|------------|
| 売上高 | 524 | 495 | 630 |
| 営業利益 | 72 | 56 | 63 |

2010年度の業績概況

火力・地熱発電設備を中心として、2009年度の大型新設プロジェクトの発注延期や凍結により、売上高、営業損益とも前期を下回りました。

一方、受注は2009年度の大型案件の投資抑制から一転し、景気回復を背景に電力需要は世界的に拡大傾向にあり、火力発電分野では新興国を中心に新規受注が増加しました。また、国内では環境・省エネルギーの観点から高効率化や長寿命化対策による修理・改修などの更新需要が活発化しました。原子力・放射線分野においても、アフターサービスの需要が活発化し、エネルギー部門全体として大幅な受注増となりました。

2011年度の市場環境

国内では、東日本大震災の影響により電力需要が緊迫化しており、火力発電・水力発電設備を中心に、運転停止をとまなう修理・改修といったアフターサービスは減少するものと思われませんが、再生可能エネルギーを利用する地熱発電が注目されつつあります。また、震災からの復旧・復興支援では安心・安全への関心が高まる中、放射線測定機器のニーズが拡大しております。

海外では、電力需要は伸長傾向にあり、アジア・中近東など新興国での火力・地熱発電設備の増強は続くものと見込まれます。

2011年度の方針・戦略

主力となる火力・地熱発電プラント事業は、既存顧客への取り組み強化、商社・エンジニアリング会社などのパートナー企業および海外販売会社との連携強化により、アジア・中近東市場を中心とした受注拡大に取り組みます。

東日本大震災時にも電気を供給し続けた燃料電池は、新エネルギーとして注目されており、国内においては震災などの非常時でも継続的に発電する分散電源として拡大を図ります。また、海外においては、環境ニーズの高まりにより普及拡大が見込まれる欧州市場や韓国市場への参入・拡販をめざします。

原子力・放射線分野では、震災による追加安全対策の展開および復旧支援を推進します。放射線測定機器では電力会社向けから官庁、自治体、民間企業まで復興支援を強力に推進するとともに、「食品放射能測定システム」を開発し、集配所や配送センターなどの大量検査の省力化および安心に貢献します。